旧約聖書の平和論

神は暴力・戦争を肯定するのか

南野浩則 著

聖書は「平和の福音」と言われるが、一方で旧約聖書には戦争や暴力の記事が出てくる。「好戦的」にさえ見える旧約の神ヤハウェは、「あなたの敵を愛しなさい」とイエスが教えた愛の神と同じ神なのか？平和神学を奉じるメノナイトの旧約学者が、旧新約を貫く「平和のビジョン」を解き明かす。

南野浩則（みなみの ひろのり）

1963年　大阪市生まれ。1994年　福音聖書神学校卒業。2001年　M Div.（Old Testament）Mennonite Brethren Biblical Seminary, Fresno, CA　2005年 Ph. D.（Old Testament）University of Aberdeen, Scotland, UK. 現在、日本メノナイトブレザレン教団福音聖書神学校教務、日本メノナイトブレザレン教団石橋キリスト教会副牧師、大阪聖書学院非常勤講師、Asia Graduate School of Theology/ Japan 講師、東京ミッション研究所理事。著作『十戒シナイ契約・律法と山上の説教』『聖書を解釈するということ』（いのちのことば社）他

四六判 288頁
定価2,200円（本体2,000円＋税）
ISBN978-4-264-04383-6 C0016
いのちのことば社　卸コード 29815